

論文内容の要約

論文名	Ability of NT-pro-BNP to Diagnose Cardioembolic Etiology in Patients with Acute Ischemic Stroke
氏名	岡田 由実子
<p>【目的】心原性脳塞栓症(CE)の約70%が非弁膜症性心房細動(AF)を誘因とするが、約30%は入院時心電図でAFを認めないため初期診断が困難である。我々は心不全のマーカ―として知られる血清脳性利尿ペプチド(NT-pro-BNP)値を測定し、心原性脳塞栓症の初期診断における有用性を検討した。</p> <p>【対象】2009年1月から2011年12月までに脳梗塞の診断で発症48時間以内に入院加療を行った症例。</p> <p>【方法】病歴、神経学的所見、画像所見(CT, MRI 拡散強調画像, MRA)に基づいて急性期脳梗塞の診断を行い、National Institute of Neurological Disorders and Stroke (NINDS)にもとづいて病型分類を行い、CE群とそれ以外の病型群(non-CE群)の2群に分けた。入院24時間以内に血清NT-pro-BNP値、Thrombin-Antithrombin III Complex (TAT)値、D-dimer値を測定し、2群間で血清NT-pro-BNP値、TAT値、D-dimer値について比較検討を行った。CEの初期診断におけるNT-pro-BNP値の有用性について検討した。</p> <p>【結果】急性期脳梗塞279例はCE群60例、non-CE群219例。年齢と入院時National Institute of Health Stroke Scale (NIHSS)はCE群で有意に高く、入院時AFはCE群で有意に多かった。血清TAT値と血清D-dimer値は2群間で有意差はなく、血清NT-pro-BNP値はCE群で有意に高く、カットオフ値332 pg/mL、感度98.3%特異度75.8%であった。</p> <p>【結論】NT-pro-BNPは、急性期脳梗塞におけるCEの初期診断に有用なバイオマーカーである。</p>	